PART3 「に」の識別（応用編）

4 「　　　　」＋に

断定の助動詞　※左記「断定」参照

格助詞　（「である」と訳せない）

※断定

○　**に**＋（助詞）＋

○　**に**

5「　　」形＋に
- **断定**の助動詞 → 4の「※断定」と同様なので、そちらを参照のこと。
- **格助詞**
- **接続助詞**

※格助詞

連体形＋に　述部

※接続助詞

連体形＋に‖、～

⇒ 「　　」「　　」「　　」で訳せる。

第17講　PART3　確認問題

①「思ひなしにや、〜。」の傍線部と文法的意味・用法が同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。

イ　ここだくも狂ひに狂ひ思ほゆるかも。

ウ　火の中にうちくべて焼かせたまふに、めらめらと焼けぬ。

エ　鬢（びん）は失せにたれば、ひたぶるになし。

オ　あづまの方にすむべき国もとめにとて行きけり。

②「おはしましぬ。」の「ぬ」と文法的に同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　酔ひにけり　　イ　往にけり　　ウ　恋しきに　　エ　さばかりに

③　傍線部には、一つだけ文法的に異なるものがある。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　御心も通ひぬべきを、…
イ　老人御方に入りたまひにけり。
ウ　今宵この人々にや食はれなんと思ふも、…
エ　男の艶だちゐたまへる方に帰り往にけり。
オ　中将、言ひわづらひて帰りにければ、…

④　「抜かむとするに、大方抜かれず。」の傍線部について、文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　断定の助動詞「なり」の連用形　イ　格助詞の「に」　ウ　接続助詞の「に」　エ　副助詞の一部

⑤　「若くきよげになまめきて、…」の傍線部と文法的説明が同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　清水のある所に伏しにけり。
イ　そこなりける岩に、指の血して書きつけける。
ウ　はるかにたやすく候ふべし。
エ　徳の至れりけるにや。

第17講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「にや・にか（にこそ）」の下が「、」か「。」の場合は、「あらむ（あらめ）」が省略されている。アは「に」の下に「あら」があるので、「断定」の「に」と判断。よって、アが正解。

② 設問文の「ぬ」は、連用形に接続しているので「完了」の助動詞。選択肢アの「に」が、上が連用形（もしくは下に「けり」があり、上が「死」「去」「往」ではない）から「完了」。よって、アが正解。

③ 選択肢エは「往に」で一語のナ行変格活用動詞。他は連用形に接続する完了の助動詞。よって、エが正解。

④ サ行変格活用動詞の連体形に接続し、「抜こうとしたが、全く抜けない」と訳すことができる。「に」が逆接の働きをしているので、接続助詞。よって、ウが正解。

⑤ 「きよげなり」とできることから、「に」は形容動詞ナリ活用の活用語尾と判断。同様に探すと、「はるかに」は形容動詞。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② ア　③ エ　④ ウ　⑤ ウ